

健康福祉委員会視察報告書

- 【視 察 日】** 平成27年7月23日（木）～24日（金）
- 【視 察 委 員】** 天野正孝委員長、薮崎幸裕委員、遠藤孝委員、石井通春委員、油井和行委員、多田晃委員
- 【視 察 先】** 新潟県 魚沼基幹病院、長野県 諏訪中央病院
- 【調 査 事 項】**

- ① 地域医療の機能分担・ネットワーク化の状況について
(基幹病院や県立病院、また地域内の他の病院や医療機関との病病連携・病診連携)
- ② 新しい地域医療制度改革に向けた活動状況及び今後の展開について
(急性期医療、救急医療、高度専門医療ほか)
- ③ 総合診療医の育成を視野に入れた教育プログラムの構築について

【調 査 概 要】

1 新潟県 魚沼基幹病院

① 病院の概要（科・病床数など）

正式名称：新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センター・新潟県地域医療推進機構 魚沼基幹病院

(略称：新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院)

所在地：新潟県南魚沼市浦佐 4132 番地

開設日：平成27年6月1日

開設主体：新潟県

運営主体：一般財団法人新潟県地域医療推進機構

診療科：内科・総合診療科、循環器内科、内分科・代謝内科、血液内科、腎臓内科、リウマチ科、呼吸器内科・感染症内科、消化器内科、神経内科、精神科、小児科、消化器外科、乳腺・内分泌外科、心臓血管外科、呼吸器外科、脳神経外科、整形外科、形成外科、泌尿器科、皮膚科、産婦人科、眼科、耳鼻咽喉科、放射線治療科、放射線診断科、リハビリテーション科、麻酔科、矯正歯科、歯科口腔外科、救急科、病理診断科

病床数：454床（一般病床400床、精神病床50床、感染症病床4床）

② 取り組みの経緯・内容

新潟県では、県内の地域医療の推進を図り、住民の健康と福祉の向上に寄与することを目的として、平成24年4月17日に一般財団法人 新潟県地域医療推進機構を設立し、ここを母体に魚沼地域に不足する救命救急医療や高度医療を確保し、周辺医療機関との連携と役割分担による新たな医療体制（魚沼医療圏の再編）を構築するため、平成27年6月1日に「新潟大学地域医療教育センター・魚沼基幹病院」を開院し、併せて、魚沼基幹病院には新潟大学の組織として「新潟大学医歯学総合病院魚沼地域医療教育センター」を併設し教授等の指導医を現職のまま招聘することで診療・研修体制を充実させるとともに、総合診療医の育成など地域医療に意欲的な研修医の確保を目指している。



③ 今後の課題

一般財団法人を母体としたことによって、県からの補助金を直接利用できない点、県からの派遣職員を多く受け入れており、機器の購入や病院の運営に関する決定が病院内で即決できない点、医療圏再編によって設立された際に、医療圏全体としては病床数が減員されてしまった点等を今後どう克服するかが課題となる。

④ 本市に反映できると思われる点

- ア 各医療圏での連携医療体制を作るための県事業による基幹型病院という発想の県への提案。
- イ 大学医学部の教育機関を併設することによる医師確保の充実と総合診療医の育成などの地域医療の推進にとって必要な医師の確保。
- ウ 地方企業法の制約を受けない法人の設立と運用の発想。

2 長野県 諏訪中央病院

① 病院の概要（科・病床数など）

正式名称：組合立諏訪中央病院

所在地：長野県茅野市玉川 4300 番地

開設日：昭和25年8月1日

ちの町国保から昭和28年8月に現諏訪中央病院組合へ移譲

組合者：茅野市長 柳平千代一

設置主体：茅野市、原村、諏訪市による一部事務組合

診療科：内科、精神科、神経科、呼吸器科、消化器科、循環器科、小児科、
外科、消化器外科、整形外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、
産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、リハビリテーション科、放射線科、
病理診断科、歯科口腔外科、麻酔科

病床数：360床

・ 一般病床 315床

（一般264床、緩和ケア6床、回復期リハビリテーション45床）

・ 療養病床 45床

（医療療養型15床、介護療養型30床）

② 取り組みの経緯・内容

諏訪中央病院は長野県茅野市にある医療機関。正式名称は組合立諏訪中央病院。茅野市、諏訪市、原村の3自治体が構成する「諏訪中央病院組合」が運営する。

茅野市の小高い丘の上に立つこの病院はかつて院長であった今井澄、鎌田實らの活躍により全国区の知名度を持ち、日本各地から研修医が訪れるという。

●スローガン：あたたかな急性期病院

●基本理念：やさしく、あたたかい、たしかな医療を目指す

●医療目標：① 充実した救急医療

② 安全な医療

③ 患者さんの権利を尊重した、思いやりのある医療

医療が安全でありあらゆる病気は治せるという医療幻想にとらわれない、「命」に寄りそったあたたかな療養環境を提供し、あたたかな思いやりの気持ちで患者さんに接する、あたたかな急性期病院をめざしている。

患者さんに選ばれる良好な療養環境と、有能なスタッフの確保・育成のため、現在増改築工事を行っている。

昨年暮れには、藤田保健衛生大学救急総合内科教授でNHKのドクターGで出演されていた山中克郎医師を院長補佐として迎え、若手医師育成に努めている。

③ 今後の課題

医療圏の基幹的な病院が諏訪赤十字病院で、約20万人の人口に対し、4つの総合病院で対応している。このうち、諏訪中央病院対象地区の人口は8万人で、医師96名・看護師504名で対応しているが、断らない医療の実践のための医療の質の確保を考えたとき、教育体制の充実が問題となるため、専門指導員の配置と教育体制のさらなる充実を図るため先輩医師も加わった屋根瓦式教育体制の充実を図っているが、それでも休診となる科があり、医師の確保に苦慮している。



④ 本市に反映できると思われる点

ア 2週間～4週間の研修期間を設けるクリニカルクラークシップ（学生が医療チームの一員として実際の診療に参加し、より実践的な臨床能力を身に付ける臨床参加型実習）の実施。

イ 科の垣根を越えた入院カンファレンス等の実施。

ウ 名医の発掘と招聘。

エ 屋根瓦式の教育体制（医師・後期研修医・初期研修医・医学生）。